

## 第14回公開講座 部落史関連講座(2)

とくしま社会運動資料センター(以下、資料センター)は、「社会運動はその性格上、一定の役割を果たすと運動母体が消散し、運動に関わる様々な資料は散逸するものも数多くあります。当会館は県内唯一の勤労者センターとして、こうした貴重な文献資料を集積し、広く県民へ閲覧開放することにより勤労者福祉の発展に寄与する」ことを目的とし、公益法人制度改革関連三法に基づく徳島県労働福祉会館の公益目的事業として2014年10月にスタートしました。以降、「賀川豊彦と協同組合主義」を皮切りに、「輝いた阿波の女性たち」、「森永ひ素ミルク中毒事件」、「阿南原発建設阻止」や、ハンセン病問題を考える「大島青松園視察研修」、鳴門教育大教授セクハラ事件を中心とした「セクハラ問題について考える」など、多数の公開講座を開催し、併せて『賀川豊彦と社会運動』や『阿南出身の作家・北條民雄さんとハンセン病問題の今』などのパネル展も開催してきています。

2017年6月からは、解放同盟徳島県連や徳島解放研究所から寄贈された約五千点の資料を基に研究者の協力を得て「部落史に関する協議」を進めてきました。この度、部落史年表(前近代編・近代編)の素案ができましたので、部落史関連の連続講座を開催する運びとなりました。第1回目となる部落史関連講座(1)を去る3月16日に開催し、徳島県立博物館副館長の長谷川賢二さんに「徳島の部落史研究・前近代編—『部落史の見直し』と現状をめぐって—」と題した講座を、国際日本文化研究センター客員准教授の吉村智博さんには「近現代部落史研究の現在—部落差別の歴史的把握はいかになされてきたか—」と題した講座をそれぞれ行って頂きました。6月1日には部落史関連講座(3)として、芝原生活文化研究所の辻本一英さんを講師に迎え、「徳島の被差別民と芸能文化—阿波の箱まわしを中心に—」と題した講座を行って頂きました。

そして今回は下記の通り、四国大学の関口寛さんによる講座と、当センター運営委員の中野輝行さんによる調査報告であります。

日 時	2019年9月7日(土) 10:00~12:00
場 所	ヒューマンわーくぴあ徳島5Fホール(徳島市昭和町3丁目35-1)
内 容	部落史関連講座(2) 「徳島から見た近代の部落史研究」 関口 寛さん(四国大学) 「聞き取り調査報告」 中野 輝行さん(資料センター)
対 象	一般の方どなたでも可。参加無料。

[関口先生からのメッセージ] 徳島からは近代以後の部落史を考える上で重要な役割を果たした知識人や社会事業家が多く生まれました。本講座では、鳥居龍蔵、喜田貞吉、賀川豊彦らを取りあげ、彼らの足跡をつうじて徳島から近代の部落問題の特質について考えます。



部落史関連講座(1)/2019.3.16

### — 今後の日程 —

社会運動史関連講座(1)(2) 2019年11月16日(土)10:00~12:00  
 「徳島における戦後社会運動の特徴」 久積育郎さん(資料センター)  
 「徳島における戦後の教職員運動」 生駒佳也さん(徳島県立図書館)

### ●お申し込み・お問い合わせ●

一般社団法人徳島県労働福祉会館 とくしま社会運動資料センター事務局  
 〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1  
 TEL 088-602-0532/FAX 088-625-5005  
 Eメール roukan@workpia-tokushima.jp/ホームページ http://workpia-tokushima.jp